

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Bulletin of the National Museum of Ethnology Vol. 20No. 4; Cover, Contents, and others

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-02-16 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10502/00009188 |

1995—204_卷4_号

国立民族学博物館 研究報告



ビルマの建国神話について——田村克己

冗談関係にあるもののあいだでかわされる冗談

——北部カメルーン・フルベ族の場合——江口一久

北部ラガの人生儀礼における贈与交換——吉岡政徳

「つぎはぎジャケット」と「ふんどし」

——ベンガルのパウルの宗教と宗教儀礼——村瀬 智

Current Trends of Out-Migration from Kosrae and Pohnpei,
the Federated States of Micronesia——Akitoshi Shimizu



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

20 卷 4 号

1995 年

目 次

| | | |
|--|-----------------------|-----|
| ビルマの建国神話について | 田村克己..... | 607 |
| 冗談関係にあるもののあいだでかわされる冗談 —北部カメルーン・フルベ族の場合— | 江口一久..... | 647 |
| 北部ラガの人生儀礼における贈与交換 | 吉岡政徳..... | 671 |
| 「つぎはぎジャケット」と「ふんどし」 —ベンガルのパウルの宗教と宗教儀礼— | 村瀬 智..... | 719 |
| Current Trends of Out-Migration from Kosrae and Pohnpei, the Federated States of Micronesia | Akitoshi Shimizu..... | 753 |
| 彙 報 | | 773 |
| 国立民族学博物館研究報告 20巻 総目次 | | 788 |
| 国立民族学博物館研究報告寄稿要項 | | 789 |
| 国立民族学博物館研究報告執筆要領 | | 790 |

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 20 No. 4

1995

| | | |
|-----------------------|---|-----|
| TAMURA, Katsumi | Essay on the Founding Myth of the Traditional Kingdom of Burma | 607 |
| EGUCHI, Paul Kazuhisa | The Expression of Joking Relationships among the Fulbe of Northern Cameroon | 647 |
| YOSHIOKA, Masanori | On Gift-Exchange in the Life-Cycle Rituals of North Raga | 671 |
| MURASE, Satoru | Patchwork Jacket and Loincloth: Religious Beliefs and Practices of the Bauls of Bengal | 719 |
| SHIMIZU, Akitoshi | Current Trends of Out-Migration from Kosrae and Pohnpei, the Federated States of Micronesia | 753 |

彙報

(平成7年10月～
平成7年12月)

人事異動
(教育職)

(採用)

11月1日 第一研究部助手 平井京之介

(外国人客員研究部門)

10月1日 第五研究部教授 李 昆 声
(中華人民共和国, 雲南省博物
館長)

〈任期 7.10.1～8. 3.31〉

文部省国際シンポジウム

◎アジア諸民族音楽文化のダイナミズム—伝
統と変容—

期間 平成7年10月24日(火)

～10月28日(土)

場所 国立民族学博物館

摘要 大きく変化するアジアの音楽文化の
現況を浮き彫りにすると共にアジア
の音楽研究者の研究交流を促進する
ことを目的に、アジア各国の伝統音
楽伝承の現状と課題、伝統音楽とポ
ピュラー音楽の相関関係などについ
ての活発な討論がおこなわれました。

組織委員会

(委員長)

佐々木高明 国立民族学博物館長

(委員)

藤井 知昭 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究
部長

杉村 棟 国立民族学博物館第二研究
部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究
部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究
部長

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究
部長

東府 義之 国立民族学博物館管理部長
実行委員会

(委員長)

藤井 知昭 国立民族学博物館副館長

(委員)

福岡 正太 国立民族学博物館第二研究
部

長野 泰彦 国立民族学博物館第一研究
部

久保 正敏 国立民族学博物館第五研究
部

朝倉 敏夫 国立民族学博物館第一研究
部

南 真木人 国立民族学博物館第三研究
部

園田 直子 国立民族学博物館第五研究
部

林 勲男 国立民族学博物館第四研究
部

嘉原 優子 国立民族学博物館非常勤講
師

櫻井 哲男 熊本大学

岩井 正浩 神戸大学

伊藤 憲彦 国立民族学博物館管理部研
究協力課長

日 程

10月24日(火)

(司会) 長野 泰彦

10:30 開会式

あいさつ

佐々木高明

問題提起

藤井 知昭

14:00 アジア各国における伝統音楽の伝
承に関する現状報告 1

(司会: 田村 克己)

報告者

王 耀 華

福建師範大学

R. M. SOEDARSONO

インドネシア芸術大学

KWON Oh-Sung

漢陽大学音楽大学・韓国国学院

Jose MACEDA

フィリピン大学名誉教授

10月25日 (水)

10:00 アジア各国における伝統音楽の伝承に関する現状報告2

(司会：KWON Oh-Sung)

報告者

許 常 恵

国立師範大学音楽研究所

Jarern chai CHONPAIROT

シル・ナカリン・ウイロト大学

小島 美子

国立歴史民俗博物館名誉教授

13:30 セッション1

(司会：谷本 一之)

日本民族音楽の伝承における学校教育の機能 奥 忍

インドの舞踊教育—カラークンシェトラにおけるバラタ・ナーティヤムを事例に— 大谷紀美子

14:30 パネル・ディスカッション1

現代アジアにおける伝統音楽の伝承構造 加藤富美子

岩井 正浩

水野 信男

10月26日 (木)

10:00 セッション2A

(司会：Jose MACEDA)

The Common Character of the Voice Production between the Traditional and Popular Female Songs in Yap, Federated States of Micronesia 小西 潤子

Tradition of the Ulahingan, an Epic Songs of the Manobos in Mindanao Ekkehart ROYL

Popular-Styled Folksongs in Toba Batak, Indonesia

Triyono BRAMANTYO

From the Igway to the Bulaklakan: Notes on the Structure of Transmission of Iraya Vocal Music in a Changing Philippine Society

Jonas U. BAES

10:00 セッション2B

(司会：許 常恵)

生活方式と音楽の伝承

喬 建 中

中国土家族の葬礼音楽研究

周 耘

A Comparison Study between Some Kinds of Tod-Shae 毛 継 増

13:30 セッション3A

(司会：樋口 昭)

発掘された平安期の口琴—アジアの口琴文化におけるその意義

直川 礼緒

民俗芸能保持組織に見る社会的変動の影響 松永 建

13:30 セッション3B

(司会：増山 賢治)

The Concept and Method of Taoist Music Research in China

劉 紅

Tradition and Modification on the Chinese Zheng(箏) 鄭 徳 淵

14:30 セッション4A

(司会：小島 美子)

映像による音楽研究 大森 康宏

ローカル舞楽に見るエスニシティ

—白山神社舞楽— 柿木 吾郎

Performing Ten or More Categories of Music: A Revelation of the Music System of the Tang Dynasty

CHUANG Pen-Li

民俗芸能と映像記録—中国少数民族, 現地取材を事例として—

市原 雄二

ACCU 制作「アジア太平洋の楽器 I」 小柴はるみ

14:30 セッション4B

(司会：R. M. SOEDARSONO)

Music of Northeast Thailand

Munee BHANDHAVEE

Suphanee LUA-BUNCHU

Surasak PHIMSEN

Molam and Isan Society
 Jarernchai CHONPAIROT
 Ratreesawat UNTHAYA
 Changes in Thai Folk Performing
 Arts in the Past Ten Years
 Songkhum ATTHAKORN
 Sucharit BUA-PHIM
 Somphot CHAYA-KASETRIN

10月27日 (金)

9:30 セッション 5A

(司会：櫻井 哲男)

The Comparative Study between
 Platonic and Confucian Musical
 Thought GONG Xiao Qisng
 Korean Traditional Music in the
 Future KWON Oh-Sung

9:30 セッション 5B

(司会：岩井 正浩)

中国・黄土高原における音文化の
 現代的変容 井口 淳子
 How Tradition Nurtured Various
 Styles in 20th Century Chinese
 Vocal Music

Nancy Hao-Ming CHAO
 「通俗音楽」および「民歌」「民謡」
 概念のダイナミズム —中国・日本
 における研究(創作)活動の流れ—
 仲 万美子
 Interrelation between Popular
 Songs of the Hakka in Shaoguan
 (Northern Guangdong) and Gan-
 nan (Southern Jiangxi)

鄭 瑞 貞

13:30 セッション 6A

(司会：水野 信男)

The relevance of economic libera-
 lization policies of India to its
 popular/traditional music markets

小日向英俊

Aspects of Style in Musicology-
 Korea KWON Oh-Sung
 Okinawa “Electric Fork”

三井 徹

13:30 セッション 6B

(司会：許 常 恵)

現代音楽歴史中における中国伝統
 音楽 鄭 錦 揚
 福建南音伝承発展の歴史とその啓
 発 王 耀 華

15:00 パネル・ディスカッション 2

現代アジアにおける伝統音楽とポ
 ピュラー音楽 久万田 晋
 増山 賢治
 福岡 正太

10月28日 (土)

10:00 アジア太平洋民族音楽学会総会

13:30 研究公演

◎特別研究「アジア・太平洋地域における民
 族文化の比較研究—第7回シンポジウム
 時間とことば」

期間 平成7年10月30日(月)

～11月2日(木)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、「時間」の
 問題をことば現象を通じて社会科学
 の立場から検討し、それぞれの社会
 科学的分析方法とその結果が相互に
 共有しうるインターフェイスのあり
 かたを模索し、各研究者が専門とす
 る言語と文化における時間認識と歴
 史性に関する普遍性と特殊性を実証
 的に検証した。

実行委員会

(委員長)

長野 泰彦 国立民族学博物館第一研究
部

(委員)

秋道 智彌 国立民族学博物館第一研究
部

上杉 富之 国立民族学博物館第二研究
部

佐藤 浩司 国立民族学博物館第四研究
部

| | | | |
|-------------------|----------------------------|-----------|---|
| (事務局長) | | 宮田 登 | 神奈川県立常民文化研究所 |
| 杉島 敬志 | 国立民族学博物館第二研究部 | 安富 歩 | 京都大学人文科学研究所 |
| 杉本 良男 | 国立民族学博物館第三研究部 | 討論者 | |
| 田辺 繁治 | 国立民族学博物館第二研究部 | 小長谷有紀 | 国立民族学博物館 |
| 田村 克己 | 国立民族学博物館第二研究部 | 佐々木高明 | 国立民族学博物館 |
| 林 勲男 | 国立民族学博物館第四研究部 | 田中 雅一 | 京都大学人文科学研究所 |
| 福岡 正太 | 国立民族学博物館第二研究部 | 角田 太作 | 東京大学文学部 |
| 松山 利夫 | 国立民族学博物館第一研究部 | 林 勲男 | 国立民族学博物館 |
| 南 真木人 | 国立民族学博物館第三研究部 | 藤井 知昭 | 国立民族学博物館 |
| 横山 廣子 | 国立民族学博物館第二研究部 | 八杉 佳穂 | 国立民族学博物館 |
| 吉本 忍 | 国立民族学博物館第五研究部 | 日程 | 10月30日(月) |
| 事務局 | | 12:30 | 参加者登録 |
| 江藤 靖弘 | 国立民族学博物館管理部研究協力課国際協力係 | 13:00 | 開会式 |
| 下浦 摩紀 | 『アジア・太平洋』事務局報告者 | | 館長挨拶 佐々木高明 |
| Peter Austin | 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 | | 運営委員長挨拶 藤井 知昭 |
| 川田 順造 | 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 | 13:15 | 問題提起 長野 泰彦 |
| 崎山 理 | 国立民族学博物館 | | (座長：田中 雅一) |
| Alfred Gell | London School of Economics | 14:00 | Time and Social Anthropology |
| 立川 武藏 | 国立民族学博物館 | | A. Gell |
| Wallace Chafe | University of California | 15:45 | Money and Non-Equilibrium Open Systems 安富 歩 |
| 長野 泰彦 | 国立民族学博物館 | 10月31日(火) | (座長：小長谷有紀) |
| 古橋 信孝 | 武蔵大学人文科学部 | 9:30 | 民俗における時間 宮田 登 |
| James A. Matisoff | University of California | 11:10 | 日本古代の時間 古橋 信孝 |
| Marianne Mithun | University of California | | (座長：崎山 理) |
| 見田 宗介 | 東京大学教養学部 | 13:30 | 社会構造と時間 見田 宗介 |
| | | 15:15 | 仏教における時間 立川 武藏 |
| | | 11月1日(水) | (座長：立川 武藏) |
| | | 9:30 | Temporal Reference, Tense and Aspect in Australian Aboriginal Languages P. Austin |
| | | 11:10 | Aspects of Aspect, with Special Reference to Lahu and Hebrew J. A. Matisoff |
| | | | (座長：角田 太作) |
| | | 13:30 | オセアニア・東南アジアで流れる時間—オーストロネシア語族を中心に— 崎山 理 |
| | | 15:15 | The Codification of Time in Native |

North America M. Mithun

11月2日(木)

(座長:P. Austin)

9:30 How Time Affects the Shape of Language W. Chafe

11:10 歴史の語りにおける時間と空間の表象—無文字社会の王朝史の語り(西アフリカ・ブルキナファソの旧モシ王国の事例)に基づいて—川田 順造

(座長:長野 泰彦)

13:30 総括討論

◎特別研究「二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容 第4回シンポジウム—文化の生産」

期間 平成7年11月9日(木)

~11月11日(土)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、多岐にわたる今世紀の文化をめぐる諸現象に関し、ことに文化がどのように「生産」されそれが権力とどうかかわっているのかの問題に焦点をあて討論をおこなった。

シンポジウム委員会

実行委員長

田村 克己 国立民族学博物館第二研究部

実行委員

久保 正敏 国立民族学博物館第五研究部

庄司 博史 国立民族学博物館第三研究部

中牧 弘允 国立民族学博物館第一研究部

三島 禎子 国立民族学博物館第三研究部

事務局

江藤 靖弘 国立民族学博物館管理部研究協力課国際協力係

今田 好子 「二〇世紀」事務局

報告者

井野瀬久美恵 甲南大学文学部

上杉 富之 国立民族学博物館

小川 忠 国際交流基金アジアセンター

落合 一泰 茨城大学教養部・民博併任

鏡味 治也 金沢大学文学部

春日 直樹 奈良大学社会学部

姜 尚 中 国際基督教大学社会学科

ジョナサン・スペンサー

英, エジンバラ大学社会人類学部

田村 克己 国立民族学博物館

M. R. チャカロット・チッタラボン

タイ, 国家文化委員会

船曳 建夫 東京大学教養部

三島 憲一 大阪大学人間科学部

南 真木人 国立民族学博物館

森山 工 広島市立大学国際学部

山下 晋司 東京大学教養部・民博併任

山本 真鳥 法政大学経済学部

吉見 俊哉 東京大学社会情報研究所

討論参加者

石毛 直道 国立民族学博物館

今村 仁司 東京経済大学経済学部

梶原 景昭 北海道大学文学部

金光 億 韓国, ソウル大学校社会科学大学

栗本 英世 国立民族学博物館

シャムスル・アムリ・バールディン

マレーシア国民大学人類学社会学部・民博客員

佐藤 浩司 国立民族学博物館

庄司 博史 国立民族学博物館

園田 直子 国立民族学博物館

田辺 繁治 国立民族学博物館

長谷川博子 東京大学教養学部

端 信行 国立民族学博物館

森 明子 国立民族学博物館

日程

11月9日(木)

- (司会：端 信行)
- 10:30 あいさつ 石毛 直道
10:40 問題提起 田村 克己
- セッション1
- (司会：田辺 繁治)
- 13:00 インドネシアにおける国家と文化の生産 山下 晋司
13:30 インドネシアにおける文化の消費 鏡味 治也
14:00 民族と文化の創造—東マレーシア・サバの事例 上杉 富之
14:30 討論 コメント：園田 直子
- セッション2
- (司会：佐藤 浩司)
- 15:30 The Presentation of Thai Culture During And Beyond The 20th Century
M. R. Chakrabort Chitrabongs
16:00 日本・インドネシアの文化交流政策をめぐって 小川 忠
16:30 討論 コメント：Shamsul. a. b
- 11月10日(金)
- セッション3
- (司会：庄司 博史)
- 10:00 イギリス的なるもの(Englishness)の捏造—「政策としての文化」再考(1880-1920)— 井野瀬久美恵
10:30 政治的資源としてのインディオ文明：19-20世紀メキシコにおける文化的自画像の生産と消費 落合 一泰
11:00 討論 コメント：長谷川博子
- セッション4
- (司会：山下 晋司)
- 13:00 文化の生産と非生産のあいだ 森山 工
13:30 文化としての「開発」 南 真人
14:00 多文化状況下のポリネシア文化 山本 真鳥
14:30 討論 コメント：栗本 英世
- セッション5

- (司会：落合 一泰)
- 15:30 明治日本とネーションの儀礼—運動会を事例として 吉見 俊哉
16:00 村(町)民文化の生まれるとき 船曳 建夫
16:30 討論 コメント：森 明子
- 11月11日(土)
- セッション6
- (司会：森 明子)
- 10:00 「東洋」の表象と日本のアイデンティティ—植民地主義の知と権力— 姜 尚 中
10:30 ドイツにおける自文化意識と他者意識 三島 憲一
11:00 討論 コメント：今村 仁司
- セッション7
- (司会：栗本 英世)
- 13:00 Educating Professor Gellner: State, Culture and Identity in Post-Colonial Sri Lanka
Jonathan Spencer
13:30 文化、創造か再発見か?—「思い出すこと」の技法— 春日 直樹
14:00 討論 コメント：梶原 景昭
(司会：田村 克己)
15:00 総括討論 コメント：金光 億

◎民族学部門第19回国際シンポジウム「東アフリカの年齢組織—その変容と現代的意味—」

期間 平成7年11月27日(月)

～12月4日(月)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、人類の集団編成にとって普遍的かつ根本的な年齢の問題をとりあげ、年齢組織が特異に発達した東アフリカにおける従来の研究を再検討するとともに、変容しつつある現在の状況の理解をめざして、活発な討論がおこなわれました。

顧問

彙 報

梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長
組織委員会

(委員長)

佐々木高明 国立民族学博物館長

(委員)

藤井 知昭 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究
部長

杉村 棟 国立民族学博物館第二研究
部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究
部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究
部長

杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究
部長

東府 義之 国立民族学博物館管理部長

湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務
理事

実行委員会

(委員長)

栗本 英世 国立民族学博物館第三研究
部

(委員)

庄司 博史 国立民族学博物館第三研究
部

吉田 憲司 国立民族学博物館第四研究
部

南 真木人 国立民族学博物館第三研究
部

三島 禎子 国立民族学博物館第三研究
部

平井京之介 国立民族学博物館第一研究
部

伊藤 憲彦 国立民族学博物館研究協力
課長

宇治日出二郎 財団法人千里文化財団専
務理事

参加者

Sharon Hutchinson

ウィスコンシン大学マディ
ソン校人類学科助教授 (ア

メリカ合衆国)

John Lamphear

テキサス州立大学オーステ
ィン校歴史学科教授 (アメ
リカ合衆国)

Günther Schlee

ビーレフェルト大学社会学
部教授 (ドイツ)

Simon Simonse

ライデン大学研究員 (オラ
ンダ)

Paul Spencer

ロンドン大学 SOAS 人類
学科教授 (イギリス)

Serge Tornay

パリ第10大学民族学科助教
授 (フランス)

河合 香史 京都大学アフリカ地域研究
センター研修員

栗本 英世 国立民族学博物館助教授

小馬 徹 神奈川大学外国語教授

佐藤 俊 筑波大学歴史人類学系教授
国立民族学博物館客員助教
授

長島 信弘 一橋大学社会学部教授

福井 勝義 京都大学総合人間学部教授

日 程

11月27日 (月) (オオサカサンパレス)

17:00 登録

11月28日 (火)

10:00 館内見学

11:30 館長表敬訪問

13:00 開会式

セッション1

(座長:長島 信弘)

14:00 メタ・エスニック・レベルにおけ
るガダ体系 Günther Schlee

14:30 討論

15:30 レンディーノ族における友人関係
と年齢体系 佐藤 俊

16:00 討論

11月29日 (水)

セッション2

(座長: John Lamphear)

- 9:30 スーダン南東部における年齢体系
間の共鳴 栗本 英世
- 10:00 討論
- 11:00 東アフリカの年齢体系における合
意的敵対関係と政治的变化の動態
Simon Simonse

11:30 討論

セッション3

(座長: Serge Tornay)

- 13:30 ケニアのチャムス族における年齢
組織と女性のライフ・ステージ
河合 香吏
- 14:00 討論
- 15:00 スエルの“種牛の少年たち”一政
治的リーダーシップ, 正統性と男
性のイニシエーション
Sharon Hutchinson

15:30 討論

セッション4

(座長: Paul Spencer)

- 16:30 社会と年齢体系の変化—キプンギ
ス族とティリキ族の場合
小馬 徹

17:00 討論

11月30日(木)

セッション5

(座長: Sharon Hutchinson)

- 9:30 ナーリム族における年齢組織とエ
スノシステム 福井 勝義
- 10:00 討論
- 11:00 三千年紀を前にした世代体系—人
類学的視点 Serge Tornay

11:30 討論

14:00 京都へ移動

12月2日(土)

9:00 京都出発

セッション6

(座長: Günther Schlee)

- 10:30 東アフリカにおける年齢組体系の
軍事的側面—歴史的視点

John Lamphear

11:00 討論

セッション7

(座長: 福井 勝義)

- 13:00 ウガンダのテソ族における消滅し
た年齢体系 長島 信弘
- 13:30 討論
- 14:30 年齢体系と侵略的領域拡張の様式
Paul Spencer

15:00 討論

16:00 総合討論①

(座長: Simon Simonse)

12月3日(日)

9:30 総合討論②

(座長: 栗本 英世)

12:00 閉会式

12月4日(月)(オオサカサンパレス)

10:00 ワークショップ

解散

文部省国際シンポジウム

◎国際地域研究集会—ラテンアメリカの都市
と農村—

期間 平成7年12月4日(月)

~12月7日(木)

場所 国立民族学博物館

摘要 今回のシンポジウムは、ラテンアメ
リカの都市と農村についての現状と
問題点などについての活発な討論が
おこなわれました。

組織委員会

(委員長)

佐々木高明 国立民族学博物館長

(委員)

藤井 知昭 国立民族学博物館副館長

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究
部長

杉村 棟 国立民族学博物館第二研究
部長

和田 正平 国立民族学博物館第三研究
部長

友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究

部長
 杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究
 部長
 松原 正毅 国立民族学博物館地域研究
 企画交流センター長
 東府 義之 国立民族学博物館管理部長
 実行委員会
 (委員長)
 山田 睦男 国立民族学博物館地域研究
 企画交流センター教授
 (委員)
 吉田 集而 国立民族学博物館地域研究
 企画交流センター教授
 中牧 弘允 国立民族学博物館第一研究
 部教授
 山本 紀夫 国立民族学博物館第五研究
 部教授
 押川 文子 国立民族学博物館地域研究
 企画交流センター助教授
 白杵 陽 国立民族学博物館地域研究
 企画交流センター助教授
 八杉 佳穂 国立民族学博物館第四研究
 部助教授
 村上 勇介 国立民族学博物館地域研究
 企画交流センター助手
 三島 禎子 国立民族学博物館第三研究
 部助手
 小泉 潤二 大阪大学助教授
 伊藤 憲彦 国立民族学博物館管理部研
 究協力課長

報告者

Angotti, Thomas
 Pratt Institute
 Bataillon, Claude
 Universite de Toulouse
 Davis, Diane E.
 New School for Social Re-
 search
 Gilbert, Alan
 University College London
 Gunther Doering, Juan
 Patronato de Lima

Kowarick, Lúcio
 Universidade de São Paulo
 Reboratti, Carlos
 Universidad de Buenos Aires
 Ribeiro, Ana Clara Torres
 Universidade Federal do
 Rio de Janeiro
 Zendejas, Sergio
 El Colegio de Michoacán
 石井 章 アジア経済研究所総合調査
 部
 宇佐見耕一 アジア経済研究所地域研究
 部
 小泉 潤二 大阪大学人間科学部
 友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究
 部
 中川 文雄 筑波大学歴史人類学系
 萩原 八郎 四国大学経営情報学部
 幡谷 則子 アジア経済研究所地域研究
 部
 松下マルタ 同志社大学言語文化教育セ
 ンター
 山崎 圭一 横浜国立大学経済学部
 山田 睦男 国立民族学博物館地域研究
 企画交流センター

日 程

12月4日(月)
 9:00 館内見学, 受付
 11:10 開会式 (司会: 松原 正毅)
 あいさつ 佐々木高明
 徳田 次男
 11:30 基調講演 山田 睦男
 14:00 セッション1: 都市と自治行政
 (司会: Claude Bataillon)
 メキシコ市とサンパウロの給排水
 システム 萩原 八郎
 途上国における地方分権化と大都
 市の自主財源—ブラジルの現状紹
 介を中心に— 山崎 圭一
 15:10 ラテンアメリカ都市における計画
 ・貧困および不平等

Thomas Angotti

- 15:40 討論
12月5日(火)
- 9:30 セッション2:アンデス都市の事例
(司会:中川 文雄)
リマの拡大と都市問題
Juan Gunther Doering
- 10:00 大衆居住区の住民組織—ボゴタの事例— 幡谷 則子
- 10:40 ラテンアメリカ都市の未来?—ボゴタにおける経済成長, 都市発展と貧困— Alan Gilbert
- 11:10 討論
- 14:00 セッション3:ブラジル都市の事例
(司会:Thomas Angotti)
ブラジルにおける社会的再生産と大都市内部の退行
A. C. T. Ribeiro
- 14:30 ラテンアメリカの都市の巨大化と住民の生活様式・態度の変化
中川 文雄
- 15:10 都市の略奪, 社会闘争および市民権—ブラジル現代史の断章—
Lúcio Kowarick
- 15:40 討論
- 12月6日(水)
- 9:30 セッション4:農村問題の事例
(司会:友枝 啓泰)
移民と地域発展—メキシコ西部からアメリカ合衆国への移民
S. Zendejas
- 10:00 アルゼンチン北西部アンデス農民世界の構造と危機 C. Reboratti
- 10:40 ホンジュラスにおける農地改革と農業近代化 石井 章
- 11:10 討論
- 14:00 セッション5:変容する都市農村関係(1)
(司会:Carlos Reboratti)
アルゼンチンの思想における都市対農村の二重性—文明の野蛮に対する戦い— 松下マルタ
- 14:30 アルゼンチンにおける貧困—プエ

- ノスアイレス州とトゥクマン州の事例— 宇佐見耕一
- 15:10 アンデス高地の都市と農村
友枝 啓泰
- 15:40 農村と都市におけるエスニティーグアテマラのインディオとラディーノー 小泉 潤二
- 16:10 討論
- 12月7日(木)
- 9:30 セッション6:変容する都市農村関係(2)
(司会:石井 章)
- 10:00 メキシコ農村に対する都市化の影響拡大 C. Bataillon
- 10:40 都市のリヴァイヤサンに対する農村の挑戦—メキシコ政治における地域勢力関係の変化—
D. E. Davis
- 11:10 討論
- 14:00 総括討論
(司会:Alan Gilbert)
各セッション司会者発言
- 15:10 自由討議
- 16:10 閉会 山田 睦男

◎文明学部門第14回国際シンポジウム「近代世界における日本文明—情報と通信の比較文明学—」
期間 平成7年12月11日(月)
~12月18日(月)

場所 国立民族学博物館
摘要 今回のシンポジウムは、情報と通信が人類の文明にどのような意義と役割を演じたかについて、比較文明論的な視点から諸問題を考察した。

顧問
梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長
組織委員会
(委員長)
佐々木高明 国立民族学博物館長
(委員)
藤井 知昭 国立民族学博物館副館長

彙 報

石毛 直道 国立民族学博物館第一研究
部長
杉村 棟 国立民族学博物館第二研究
部長
和田 正平 国立民族学博物館第三研究
部長
友枝 啓泰 国立民族学博物館第四研究
部長
杉田 繁治 国立民族学博物館第五研究
部長
東府 義之 国立民族学博物館管理部長
湯浅 叡子 財団法人千里文化財団専務
理事

専門委員

Harumi Befu スタンフォード大学教授
Josef Kreiner ドイツ日本研究所長

実行委員会

(委員長)

久保 正敏 国立民族学博物館第五研究
部

(委員)

吉田 集而 国立民族学博物館地域研究
企画交流センター
近藤 雅樹 国立民族学博物館第一研究
部
平井京之介 国立民族学博物館第一研究
部
三島 禎子 国立民族学博物館第三研究
部
園田 直子 国立民族学博物館第五研究
部
伊藤 憲彦 国立民族学博物館管理部研
究協力課長
宇治日出二郎 財団法人千里文化財団専
務理事

参加者

Harumi Befu スタンフォード大学教授
Günther Distelrath
ボン大学専任講師
Edzard Janssen
ドイツ日本研究所研究員
William Kelly イェール大学教授

Josef Kreiner ドイツ日本研究所長
阿部 昭夫 文京女子大学経営学部教授
梅棹 忠夫 財団法人千里文化財団会長
久保 正敏 国立民族学博物館助教授
今田 洋三 近畿大学教養部教授
藤本 憲一 武庫川女子大学生活環境学
部講師
水越 伸 東京大学社会情報研究所助
教授

日 程

12月11日 (月) (千里阪急ホテル)
17:00 登録
12月12日 (火)
10:00 館内見学
11:30 館長表敬訪問
13:00 開会式
(司会:久保 正敏)
13:40 基調講演
梅棹 忠夫 (代読:久保 正敏)
第1セッション
(座長:Harumi Befu)
15:00 江戸時代出版をめぐる装置と制度
今田 洋三
16:00 討論
12月13日 (水)
第2セッション
(座長:今田 洋三)
10:00 The Development of the Informa-
tion and Communication Systems
in Germany and Japan until the
End of the Nineteenth Century
Günther Distelrath
11:00 討論
第3セッション
(座長:Josef Kreiner)
13:30 German-Japanese Cooperation in
the Japanese Telecommunication In-
dustry—The Case of Siemens, Fu-
ji Electric and Fujitsu
Edzard Janssen
14:30 討論
12月14日 (木)

第4セッション

(座長: Harumi Befu)

10:00 The Spirit and Spectacle of School
Baseball: Mass Media, Statemaking,
and "Edu-tainment" in Japan,
1905-1935 William Kelly

11:00 討論

第5セッション

(座長: 藤本 憲一)

13:30 テレビ・メディアの人と技術—フ
ィルムからビデオへ—

久保 正敏

14:30 討論

12月16日(土)

第6セッション

(座長: Josef Kreiner)

10:00 メディア表現者の消失と聴取者の
台頭: ラジオ・国家・無線想像力
水越 伸

11:00 討論

第7セッション

海外における研究・調査・収集活動

| 氏名 | 官職 | 出発 | 帰国 | 行先 |
|----------------|------------|---------|---------|-------------------|
| 吉本 忍 | 助教授(第五研究部) | 7.10.1 | 7.11.10 | ノルウェー |
| 石毛 直道 | 教授(第一研究部) | 7.10.2 | 7.10.13 | 中華人民共和国 |
| 吉田 集而 | 教授(地域研) | 7.10.10 | 7.11.29 | インドネシア |
| 佐々木高明 | 教授(館長) | 7.10.11 | 7.10.18 | 中華人民共和国 |
| 横山 廣子 | 助教授(第二研究部) | 7.10.11 | 7.10.18 | 中華人民共和国 |
| 塚田 誠之 | 助教授(第二研究部) | 7.10.12 | 7.11.12 | 中華人民共和国 |
| 友枝 啓泰 | 教授(第四研究部) | 7.10.16 | 7.11.8 | ペルー |
| 佐々木史郎 | 助教授(第四研究部) | 7.10.16 | 7.11.20 | ロシア連邦 |
| ピーター・ジョセフ・マンウス | 助手(第四研究部) | 7.10.19 | 7.11.7 | ニュージーランド, オーストラリア |
| 江口 一久 | 教授(第三研究部) | 7.10.21 | 7.11.2 | ガーナ |
| 吉田 憲司 | 助教授(第四研究部) | 7.10.23 | 7.11.20 | イギリス, オランダ |
| 池谷 和信 | 助手(第一研究部) | 7.10.31 | 7.12.29 | 南アフリカ共和国, ボツワナ |
| 久保 正敏 | 助教授(第五研究部) | 7.11.1 | 7.11.10 | イギリス |
| 重松真由美 | 助手(第一研究部) | 7.11.1 | 7.11.10 | 大韓民国 |
| 白杵 陽 | 助教授(地域研) | 7.11.1 | 7.11.20 | オランダ, フランス, イスラエル |
| 藤井 知昭 | 教授(第二研究部) | 7.11.3 | 7.11.11 | 中華人民共和国 |
| 福岡 正太 | 助手(第二研究部) | 7.11.5 | 7.12.31 | インドネシア |

(座長: 水越 伸)

13:30 「ポケベル=コギャル」は、魔法か、
メディア・テックの主体か?—一家
庭・空間・性差の観点から—

藤本 憲一

14:30 討論

12月17日(日)

第8セッション

(座長: Harumi Befu)

10:00 宿驛制度を再編成した近代郵便

阿部 昭夫

11:00 討論

13:30 総合討論

(座長: 久保 正敏)

13:30 討論—1

15:30 討論—2

17:00 閉会式

12月18日(月)(千里阪急ホテル)

9:30 ワークショップ

解散

彙 報

| | | | | |
|-------|-------------|---------|---------|--------------------------|
| 佐々木高明 | 教 授 (館 長) | 7.11. 6 | 7.11.15 | イギリス, オランダ |
| 林 勲男 | 助 手 (第四研究部) | 7.11. 6 | 7.12. 6 | イギリス |
| 江口 一久 | 教 授 (第三研究部) | 7.11. 8 | 7.11.18 | インド |
| 長野 泰彦 | 教 授 (第一研究部) | 7.11.11 | 7.12. 5 | インド, フランス, ノルウェー, イギリス |
| 松原 正毅 | 教 授 (地 域 研) | 7.11.11 | 7.12. 2 | トルコ, ウズベキスタン |
| 杉田 繁治 | 教 授 (第五研究部) | 7.11.13 | 7.11.19 | 大韓民国 |
| 朝倉 敏夫 | 助教授 (第一研究部) | 7.11.13 | 7.11.19 | 大韓民国 |
| 石毛 直道 | 教 授 (第一研究部) | 7.11.16 | 7.11.29 | チェコ, スロバキア, ハンガリー, ポーランド |
| 立川 武藏 | 教 授 (第二研究部) | 7.11.16 | 7.12. 1 | ネパール, タイ |
| 吉本 忍 | 助教授 (第五研究部) | 7.11.20 | 7.12. 7 | インドネシア |
| 園田 直子 | 助 手 (第五研究部) | 7.11.20 | 7.12. 4 | インドネシア |
| 田村 克己 | 助教授 (第二研究部) | 7.11.24 | 7.12. 9 | ミャンマー, タイ |
| 大森 康宏 | 教 授 (第五研究部) | 7.11.26 | 7.12.20 | フランス, イタリア, スイス |
| 崎山 理 | 教 授 (第五研究部) | 7.11.30 | 8. 1. 7 | アメリカ合衆国, ミクロネシア連邦 |
| 横山 廣子 | 助教授 (第二研究部) | 7.12. 2 | 7.12.11 | 中華人民共和国 |
| 田邊 繁治 | 教 授 (第二研究部) | 7.12. 3 | 8. 1.23 | タイ, ベトナム, ラオス |
| 吉田 集而 | 教 授 (地 域 研) | 7.12. 5 | 7.12.24 | オーストラリア |
| 端 信行 | 教 授 (第三研究部) | 7.12.10 | 8. 1.15 | カメルーン, ナイジェリア |
| 吉田 憲司 | 助教授 (第四研究部) | 7.12.10 | 8. 1.15 | カメルーン, ナイジェリア |
| 石森 秀三 | 助教授 (第四研究部) | 7.12.10 | 7.12.18 | マレーシア |
| 村上 勇介 | 助 手 (地 域 研) | 7.12.14 | 7.12.22 | シンガポール, インドネシア, スリランカ |
| 和田 正平 | 教 授 (第三研究部) | 7.12.16 | 8. 1.18 | タンザニア |
| 横山 廣子 | 助教授 (第二研究部) | 7.12.22 | 7.12.29 | 中華人民共和国 |

来館者抄

| | | |
|-------|--|--|
| 10月2日 | 韓国文化関係研修団 GAY, Geri (アメリカ合衆国, コーネル大学), WORONA, Steven L. (コーネル大学), BRADER, Richard (イギリス, IBM UnitedKingdom), 園田 善一 (日本アイ・ビー・エム(株)取締役), 洪 政 国 (日本アイ・ビー・エム(株)東京基礎研究所) | 一行 |
| 10月6日 | SERJEE, Zhambaldrij (モンゴル, モンゴル国立中央図書館長) | 10月12日 イワノフ (ロシア連邦, サハ共和国科学アカデミー言語・文学・歴史研究所長), 斉藤 晨二 (名古屋市立大学教養部教授) |
| 10月7日 | 経団連招聘インドネシア教師団 | 10月20日 北城格太郎 (日本アイ・ビー・エム(株)代表取締役社長), 西田 芳克 (日本アイ・ビー・エム(株)取締役), 園田 善一 (日本アイ・ビー・エム(株)取締役), 遠藤 恒雄 (日本アイ・ビー・エム(株)), 洪 政 国 (日本ア |

- イ・ビー・エム(東京基礎研究所)
- 10月21日 読売新聞社社員一行
- 10月24日 何 塞・马 塞 达 (フィリピン, 菲律宾大学荣誉退休教授), 毛 繼 増 (中華人民共和国, 中央民族学院少数民族文学藝術研究所研究員), 權 五 聖 (漢陽大学校音楽大学教授), 王 耀 華 (福建師範大学副校長), CHONPAIROT, Jaroenchai (タイ, Maha Sarakham Univ.), R. M. Soedarsono (インドネシア, Indonesia Institute of the Arts Yogyakarta)
- 吉尾 啓介 (文部省国際学術課国際学術調整官), 前川 浩 (文部省国際学術課研究者交流係長)
- 10月26日 NEILL, Mary Gardner (アメリカ合衆国, シアトル美術館長)
- 10月31日 PARAMO ROCHA, Guillermo (コロンビア, コロンビア国立大学長)
- 11月2日 PEARSON, Richard (カナダ, ブリティッシュ・コロンビア大学教授)
- 末石富太郎 (駒吹田市資源リサイクルセンター研究所長)
- 11月7日 DE MIRANDA, Danilo Santos (ブラジル, 商業関係サービス・サンパウロ支部長)
- 佐藤 泰介 (文部省政務次官), 中川 武義 (文部省政務次官室課長補佐)
- 11月11日 チェリホームス・ジャッキー (アメリカ合衆国, ミネアポリス市議会議長), ベルトン・シャーロン・セイレス (ミネアポリス市長), 田畑 俊 (茨木市市長公室長), 森下 明輝 (茨木市市長公室自治振興課主査)
- 11月23日 シェフクローノフ・エルンスト・パーレン (ロシア連邦, ロシア極東大学主任教授)
- 11月24日 DERIVISHI, Muhamet (アルバニア共和国, アルバニア外務省文化・科学・技術協力局局長)
- 11月27日 日中合同西南中国民俗調査団一行 団長 郭 大 烈 (中華人民共和国, 雲南社会科学院教授), 何 耀 華 (雲南社会科学院院長), 李 子 賢 (雲南大学教授), 陶 立 璠 (中国民族大学中文系教授), 周 星 (北京大学社会学人類学研究所教授), 李 錫 (麗江納西東巴文化博物館館長), 習 煜 華 (雲南社会科学院東巴文化研究所研究員), 白 庚 勝 (中国社会科学院民族文学研究所副研究員), 佐野 賢治 (筑波大学歴史・人類学系助教授), 飯島 吉晴 (天理大学助教授), 志賀 市子 (筑波大学歴史・人類学系研究科院生)
- 11月29日 人文・社会科学系学長懇談会一行 藤井英嘉 (北海道教育大学長), 吉原 泰助 (福島大学長), 吉田 正幸 (図書館情報大学)

- 長), 武村 泰男 (三重大学長),
田村 俣 (奈良女子大学長),
浅野 敏 (和歌山大学長),
野村 新 (大分大学長), 砂
川 恵伸 (琉球大学長), 池田
修 (大阪外国語大学長)
- 11月30日 任 式 楠 (中華人民共和国,
中国社会科学院考古研究所長),
孟 凡 人 (中国社会科学院考
古研究所漢唐与辺疆研究室主
任), 劉 晋 祥 (中国社会科
学院考古研究所内蒙古考古隊
長), 李 毓 芳 (中国社会科
学院考古研究所西安漢城隊
長), 安 家 瑤 (中国社会科
学院考古研究所西安唐城隊
長), 岩永 省三 (奈良国立文
化財研究所平城宮跡発掘調査部
主任研究官)
- 12月1日 ムホブリョヴァ・スヴェトラ
ナ (ロシア連邦, サハ共和国ヤ
クーチャ・サハ科学アカデミー
社会科学研究所上級研究員)
- TIMPSON, Robert C.** (アイ・
ビー・エム・ワールドトレード
・アジア・コーポレーション社
長), **MCCARTHY, Anne M.** (ア
イ・ビー・エム・アジア・パシ
フィック副社長), 橋本 孝
之 (アイ・ビー・エム・ワール
ドトレード・コーポレーション
社長補佐), 遠藤 恒雄 (日本
アイ・ビー・エム(株)) **R. H.**
Sadono (インドネシア, ガス
科学館館長), **J. Muse** (ガス科
学館), **SOSHARTO** (ガス科学
館), **ZULMZDJIDI** (ヌサンタラ
ガスサービス), 須田 晴也 (ヌ
サンタラガスサービス)
- 12月2日 日本経済新聞社大阪本部長一
行
- 12月15日 **Dago Tshering** (ブータン王国,
内務大臣)
- 12月19日 大韓民国文化財視察団一行

国立民族学博物館研究報告 20巻 総目次

20巻1号

Osamu Sakiyama : Decipherment and Studies of Early Palauan Word-Lists Collected
since the Eighteenth Century 1

徐 平 : 羌村社会结构分析 49

James A. Matisoff : Sino-Tibetan Numerals and the Play of Prefixes 105

20巻2号

Eisei Kurimoto : Coping with Enemies:
Graded Age System among the Pari of Southeastern Sudan 261

大林 太良 : 中国辺境諸民族の文化と居住地
——エーバーハルト説の紹介と評価(そのI. 概観)—— 313

井口 淳子 : 中国・口承長篇物語のテキストと語り
——語りもの「樂亭大鼓」にもとづいて—— 357

20巻3号

園田 直子 : スプリングラー事故で冠水した衣類等に施した緊急保存処置に関する報告
——阪神・淡路大震災による被災資料の例—— 429

大林 太良 : 中国辺境諸民族の文化と居住地
——エーバーハルト説の紹介と評価(そのII. 南方辺境諸民族)—— 455

菊池 秀明 : 明清期の中国広西東南部における中流宗族の動向
——平南県胡以眈一族の族譜分析を中心に—— 501

加藤 昌彦 : ポー・カレン語諸方言の音韻体系
——西部方言1種と東部方言2種—— 547

20巻4号

田村 克己 : ビルマの建国神話について 607

江口 一久 : 冗談関係にあるもののあいだでかわされる冗談
——北部カメルーン・フルベ族の場合—— 647

吉岡 政徳 : 北部ラガの人生儀礼における贈与交換 671

村瀬 智 : 「つぎはぎジャケット」と「ふんどし」
——ベンガルのパウルの宗教と宗教儀礼—— 719

Akitoshi Shimizu : Current Trends of Out-Migration from Kosrae and Pohnpei,
the Federated States of Micronesia 753

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限り、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

- (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
- (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代的エクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 20卷4号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

秋 道 智 彌

江 口 一 久

熊 倉 功 夫

近 藤 雅 樹

佐 藤 浩 司

清 水 昭 俊

庄 司 博 史

杉 島 敬 志

田 邊 繁 治

長 野 泰 彦

森 明 子

吉 田 集 而

平成 8 年 3 月 29 日 発 行 非 売 品

国立民族学博物館研究報告 20卷4号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園 10-1
TEL 06 (876) 2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.20 no.4
1995

- TAMURA, Katsumi Essay on the Founding Myth of the Traditional Kingdom of Burma
- EGUCHI, Paul Kazuhisa The Expression of Joking Relationships among the Fulbe of Northern Cameroon
- YOSHIOKA, Masanori On Gift-Exchange in the Life-Cycle Rituals of North Raga
- MURASE, Satoru Patchwork Jacket and Loincloth: Religious Beliefs and Practices of the Bauls of Bengal
- SHIMIZU, Akitoshi Current Trends of Out-Migration from Kosrae and Pohnpei, the Federated States of Micronesia

ISSN 0385-180X



National Museum
of Ethnology

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151